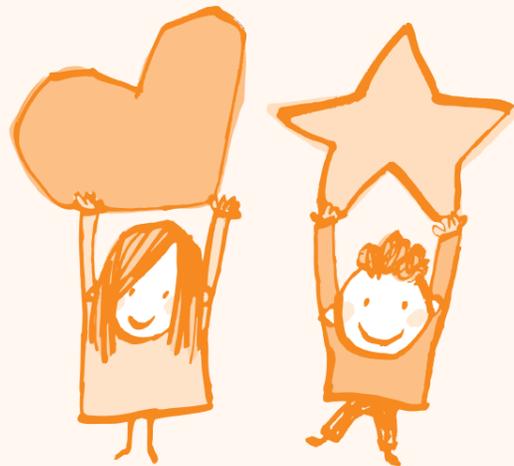


公益財団法人 がんの子どもを守る会
2018年度事業報告書

2018年4月1日～2019年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT
Apr.01,2018～ Mar.31,2019



公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311 (代表)

03-5825-6312 (相談)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検索



50th



CCAJ

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2018年度収支報告	6
 2018年度の事業概況	
①療養援助事業	10
②相談事業及び関連事業	11
③治療研究事業	15
④総合支援施設運営事業	16
⑤小児がん・難病対策	17
⑥支部活動	18
⑦広報・啓発・募金活動 等	20
⑧国際活動	24
⑨奨学金事業	25
⑩ボランティアコーディネート・研修会	25
⑪調査研究協力	26
⑫創立50年記念式典	26
⑬企業・団体からのご協力	28
 寄付・募金者一覧	29

がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、未だ病死順位の1位であること、たとえ治療を終えても小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

理事長あいさつ



公益財団法人がんの子どもを守る会
理事長 山下 公輔

2018年度事業報告書の発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

1968年に旧法上の財団として設立された公益財団法人がんの子どもを守る会にとって、2018年は設立50周年の記念すべき年でありました。設立以来の半世紀を“小児がんを治る病気にしたい”、“小児がんで苦しむ家族のいない世の中にしたい”という、小児がんで子を亡くした親たちの願いの実現を目指し、小児がんの患児・家族への支援を核に、小児がん克服のための様々な事業を展開して参りました。当会が、その目的に向けて事業を持続的に展開することができ、無事に半世紀という記念すべき節目を越えることができましたのも、各支部で会の活動を支えて下さる会員の皆様や事務局職員諸君の努力、そしてなにより外部の多くの方々のご支援の賜物であり、心より感謝しております。

既にお伝えしてきておりますが、設立50年の記念の年である2018年度を中心に2017年度及び2019年度を、記念の3ヶ年として、幾つかの新しい取り組みを進めて参りました。中でも、ペアレンツハウスの運営を当会の直営とし、併せてその機能をより時代に合ったものとするために両施設を改修し、当会本部事務所と一体化した運営により総合支援機能を強化するという目標は、2018年度のはじめから実践に入っており、順調に推移しております。

また、昨年度は設立50年の記念行事に加え、11月に京都で開催されましたSIOP（国際小児がん学会）世界大会と小児がんの親・支援者の国際団体CCI（国際小児がんの会）の世界大会のホスト国団体として重要な役割を担うなどの特別な活動もございました。これらの重責も事務局職員と多くの会員やボランティアの

方々の力により、無事かつ成功裏に終わらせることが出来たことを感謝しております。これらを含む2018年度の事業活動の詳細につきましては、本事業報告書の記述をご高覧いただきたいと思っております。

私は、当会50年の年を迎えるにあたって、事あるごとに“守る会のこれからの50年”という言い方をしてまいりましたが、2018年度の終わりから間もない本年5月には元号が平成から令和に変わり、奇しくも当会の新たな50年の始まりが、日本の新たな節目の一つと重なりました。

小児がんを取り巻く環境は、確実に良い方向に変化しており当会の二つのミッションのうち“小児がんを治る病気にしたい”は、その実現が視野に入ってきたように思われます。しかしながら、小児がんの発症を抑える医療の実現は未だに遠く、“治る”ための苦しい治療や大きな負担は無くありません。私たちは、当会の二つ目のミッション“小児がんで苦しむ家族のいない世の中にしたい”という願いの実現の為に今後とも努力を続けていかなければなりません。

このような現実を踏まえた新年度以降の事業展開の考え方について、2019年度の事業計画を策定しホームページで公開しております。是非ご高覧いただき、近年の環境変化を意識しながら、視点を設立50年の節目を越えた先へ向けた、当会の事業展開の考え方をご理解いただきたいと思っております。

50年の節目の年を越え、小児がん患児・家族に対する幅広い支援事業を持続的に推進するという当会の使命の実現について思いを新たに、不肖私を含め理事並びに事務局職員一同努力を続けて参る所存であります。皆様におかれましては、当会の活動について一層のご理解を頂き、継続的なご支援を賜りますよう誠心からお願い申し上げます。

2019年6月1日



組織概要

※2019年3月31日現在

- 名称** 公益財団法人 がんの子どもを守る会
- 設立** 1968年10月31日
- 設立趣旨** 当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。

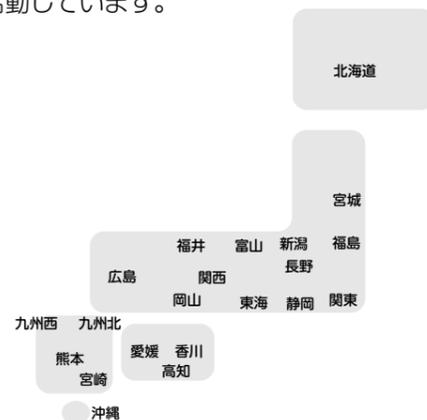
- 主務官庁** 内閣府
- 主たる事務所** 浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316
- 従たる事務所** 亀戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4
TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553
大阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1
TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229

- 組織** 理事 10名(理事長1名、副理事長2名)
監事 2名
評議員 13名
職員 29名
普通会員 1930名
賛助会員 269名(法人251社、個人18名)

支部 当会には全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地域の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

21支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、広島、香川、愛媛、高知、九州北、九州西、熊本、宮崎、沖縄



役員名簿

理事長
山下 公輔 親/元 PwC アドバイザリー合同会社 シニアアドバイザー

副理事長
細谷 亮太 当会嘱託医/聖路加国際病院 顧問
近藤 博子 親/元 当会ソーシャルワーカー

理事
橋都 浩平 株式会社メディカルノート 社外取締役/
株式会社ジャパン・メディカルカンパニー 取締役/
元 東京大学医学部附属病院 小児外科 教授
認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長/元 アフラック 会長

松井 秀文 親/当会九州北支部 幹事
張 光陽 親/弁護士
増子 孝徳 親/当会福井支部 代表幹事
坪田 起久恵 親/当会関西支部 代表幹事/NPO法人日本クリニクラウン協会 理事
森下 さふみ 常務理事/当会事務局長
石川 幹雄

監事
高橋 和子 親/当会九州北支部 幹事
三川 勝夫 親/三川会計事務所 代表

評議員
河 敬世 大阪母子医療センター 顧問
深澤 重幸 親/コトブキシーティング株式会社 代表取締役社長
西田 知佳子 NPO環の会 理事/元 聖路加国際病院 医療社会事業科 ソーシャルワーカー

平野 朋美 埼玉県立小児医療センター 地域連携・相談支援センター ソーシャルワーカー
平澤 一郎 小児がん経験者/長岡こども・医療・介護専門学校 教務主任
幸島 静枝 親/当会会員
稲田 浩子 佐賀県医療センター 好生館 小児科部長
中村 美智子 小児がん経験者
鈴木 中人 親/当会東海支部 代表幹事
隈部 俊宏 北里大学病院 脳神経外科 主任教授
田中 徹 親/当会会員
本橋 由紀 株式会社毎日新聞社 編集編成局 編集委員
三好 完治 親/当会会員

療養援助委員会
前田 美穂 日本医科大学付属病院 小児科 名誉教授
黒田 達夫 慶応義塾大学 医学部 小児外科 教授
柳澤 隆昭 東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科 教授
小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 医長
松本 公一 国立成育医療研究センター 小児がんセンター長
川井 章 国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長/
骨軟部腫瘍・リハビリテーション科長
康 勝好 埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科 部長兼科長

調査研究委員会
橋都 浩平 当会理事
細谷 亮太 当会副理事長/当会嘱託医
星 順隆 元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部

上別府 圭子 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 家族看護学分野 教授
岩田 敬治 当会最高相談役
山下 公輔 当会理事長

治療研究委員会
山下 公輔 当会理事長
黒田 達夫 慶応義塾大学 医学部 小児外科 教授
小原 明 東邦大学医学部 教授
小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 医長
陳 基明 日本大学医学部附属板橋病院 小児科 科長
菱木 知郎 国立成育医療研究センター 小児がんセンター 腫瘍外科/
国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍外科 併任
甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 教授

丸 光恵 (専門委員)
野崎 美和子 獨協医科大学 埼玉医療センター 放射線科 教授
逸見 仁道 東邦大学 医学部 医学教育センター 客員講師
中澤 温子 埼玉県立小児医療センター臨床研究部 部長

海外留学助成委員会
河 敬世 当会評議員
岡村 純 国立病院機構九州がんセンター 小児科(非常勤)/
臨床研究センター 顧問
小田 慈 新見公立大学 副学長/岡山大学 名誉教授 特命教授
駒田 美弘 三重大学 学長
中畑 龍俊 京都大学IPS細胞研究所 顧問/特定拠点教授
石川 幹雄 常務理事/当会事務局長

小児がん経験者・がん遺児奨学金制度選考委員会
鎌田 薫 日本私立大学団体連合会 会長
関谷 亜矢子 元 日本テレビアナウンサー/
厚生労働省「がんに関する普及啓発懇談会」委員
檜山 英三 日本小児血液・がん学会 理事長
藤原 房子 元 日本経済新聞社 編集委員
松井 秀文 当会理事
増子 孝徳 当会理事
小川 明 共同通信 客員論説委員
吉田 晋 日本私立中学高等学校連合会 会長

SMSキャンプ委員会
稲田 浩子 当会評議員
高木 正稔 東京医科歯科大学 発生発達病態学分野・小児科 准教授
飯田 宏美 さいわいこどもクリニック 在宅診療部
渡邊 輝子 済生会横浜市東部病院 看護部長
本橋 由紀 当会評議員

富士山キャンプ委員会
別所 文雄 日本医療科学大学 保健医療学部 医療基礎教育科/
杏林大学医学部付属病院 小児科
小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 医長
安野 啓一郎 長崎こども・女性・障害者支援センター

名誉顧問
柳田 邦男 作家



会の歴史

- 1962 設立趣意書作成
- 1966 NHKカメラリポートで紹介
- 1967 「がんの子供を助ける親の会」準備会
- 1968 2.25 「親の会」設立総会
10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可
11.18 治療研究委員会発足
12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金
- 1969 小児がん全国登録開始
- 1970 関西支部設立総会
小児がん公費負担について厚生大臣に陳情
- 1971 陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現
- 1972 九州支部設立総会
北海道支部設立総会
療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足
- 1973 映画企画委員会発足
専任ケースワーカー設置
- 1974 48年度小児がん映画完成公開
静岡支部設立総会
全国登録委員会発足
- 1975 愛知支部設立総会
49年度小児がん映画完成公開
埼玉支部設立総会
パンフレット「こどものがん」刊行
- 1976 特定公益増進法人の認定
- 1978 本会に嘱託医を設置
創立10周年記念講演と映画の会
- 1979 長野支部設立総会
創立10周年記念・国際児童がん国際シンポジウム
- 1981 新潟支部設立総会
- 1984 日本小児がん研究会発足
- 1985 第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）
- 1986 竹中相談役・顧問に藍綬褒章
- 1989 創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム
- 1991 小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行
宮城支部設立総会
- 1993 愛媛支部設立総会
小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成
- 1994 小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行
- 1995 宿泊施設「あかつきハウス」開設
岡山支部設立総会
- 1996 東京支部HOPE設立総会
学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
- 1997 国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入
- 1998 創立30周年記念第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
- 1999 九州支部、北・西・南の3支部に分割
清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）

- 2000 「小児がん患者とその家族の支援に関するガイドライン」刊行
岩田理事長に藍綬褒章
- 2001 「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
- 2002 「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行
愛知支部が東海支部となる
広島支部設立総会
- 2003 九州南支部が熊本支部となる
鹿児島支部設立総会
埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
- 2004 福井支部設立総会
香川支部設立総会
沖縄支部設立総会
「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
- 2006 小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立
「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
- 2007 ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京）
富山支部設立総会
- 2008 創立40周年記念事業がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉）
第1回小児がん経験者自立支援助成金
- 2009 「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成／大阪事務所開設
高知支部設立総会
- 2010 「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行
福島支部設立総会
- 2011 東日本大震災緊急療養援助実施
- 2012 公益財団法人移行認定
鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
- 2013 「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定
岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与
- 2014 奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始
厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出
文部科学省に「小児がん患者が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出
「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行
「小児がんの子どものきょうだいのきもち」刊行
鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる
- 2015 第29回日本医学会総会2015関西 疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いま そして これから～」開催
アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベント開催
「小児がん こどもでんわ相談室」開設
- 2016 当会、一般社団法人日本小児血液・がん学会及び特定非営利活動法人日本小児がん看護学会の連名で厚生労働省に対し「小児がん対策に関する要望書」を提出
「小児がんの子どものきょうだいたち」刊行
- 2017 アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 業務委託から直営による運営を開始
アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 施設の拡充を目的とする改修・改装工事の実施
アフラックペアレンツハウス浅草橋 リニューアルオープン
- 2018 アフラックペアレンツハウス亀戸リニューアルオープン
創立50周年記念式典開催（東京） 創立50周年記念誌発行
国際小児がんの会（CCI）／第50回国際小児がん学会（SIOP）京都開催（運営企画）



2018年度収支報告 (2018年4月1日～2019年3月31日)



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
財産運用益	5,454,124			5,454,124
普通預金利息	3,228			3,228
定期預金利息	34,761			34,761
投資有価証券利息	5,416,135			5,416,135
受取寄付金	299,710,135	85,225,838		384,935,973
特定寄付金	5,938,070			5,938,070
一般寄付金	85,225,839	85,225,838		170,451,677
受取寄付金振替額	208,546,226			208,546,226
受取協賛金	2,500,000			2,500,000
ゴールドリボン協賛金収入	2,500,000			2,500,000
受取補助金等	2,012,391			2,012,391
受取補助金等振替額	2,012,391			2,012,391
受託料	1,690,520			1,690,520
調査研究受託料	990,000			990,000
相談支援受託料	700,520			700,520
受取利用料	6,040,250			6,040,250
施設利用料	5,389,100			5,389,100
リネン利用料	651,150			651,150
雑収益	4,082,997			4,082,997
雑収益	4,082,997			4,082,997
経常収益計	321,490,417	85,225,838	0	406,716,255
(2) 経常費用				
事業費	334,326,571			334,326,571
人件費	93,648,527			93,648,527
法定福利費	11,481,777			11,481,777
給与	79,027,678			79,027,678
福利厚生費	59,812			59,812
退職給付費用	3,079,260			3,079,260
助成費	25,278,045			25,278,045
療養助成費	14,878,045			14,878,045
治療研究助成費	7,400,000			7,400,000
調査研究助成費	3,000,000			3,000,000
活動費	89,104,597			89,104,597
会議費	3,167,294			3,167,294
旅費交通費	9,748,495			9,748,495
通信運搬費	6,085,938			6,085,938
消耗品費	2,706,076			2,706,076
修繕費	1,269,220			1,269,220
印刷製本費	2,848,636			2,848,636
光熱水料費	10,930,275			10,930,275
保険料	1,146,256			1,146,256
諸謝金	1,522,975			1,522,975
業務委託費	683,508			683,508
広報費	3,448,300			3,448,300
支援費	1,021,000			1,021,000
図書資料費	143,682			143,682
保健衛生費	779,810			779,810
ゴールドリボン制作費	2,527,459			2,527,459
宿泊施設運営費	662,417			662,417
租税公課	9,177,000			9,177,000
リネン賃借料	426,957			426,957
事業協力費	2,114,970			2,114,970
会場費	5,443,738			5,443,738
雑費	2,703,053			2,703,053
保守料	13,659,692			13,659,692
リース料	1,943,290			1,943,290
植栽管理費	82,115			82,115
借地料	845,832			845,832
衛生管理費	2,931,317			2,931,317
消耗什器備品費	1,085,292			1,085,292
減価償却費	30,495,402			30,495,402
建物減価償却額	26,991,890			26,991,890
建物附属設備減価償却額	3,271,010			3,271,010
ソフトウェア減価償却額	86,400			86,400

科目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引	合計
什器備品減価償却額	146,102			146,102
奨学金給付費	95,800,000			95,800,000
奨学金給付費	95,800,000			95,800,000
管理費		28,572,399		28,572,399
人件費		19,586,137		19,586,137
給与		14,835,404		14,835,404
法定福利費		2,673,273		2,673,273
福利厚生費		24,620		24,620
退職給付費用		2,052,840		2,052,840
活動費		8,415,647		8,415,647
会議費		7,307		7,307
旅費交通費		1,248,279		1,248,279
通信運搬費		724,574		724,574
消耗品費		70,422		70,422
修繕費		14,580		14,580
印刷製本費		977,468		977,468
図書資料費		48,444		48,444
保守料		551,328		551,328
リース料		1,714,219		1,714,219
支払報酬		1,881,900		1,881,900
租税公課		78,150		78,150
消耗什器備品費		162,540		162,540
雑費		936,436		936,436
減価償却費		570,615		570,615
ソフトウェア減価償却額		242,566		242,566
什器備品減価償却額		328,049		328,049
経常費用計	334,326,571	28,572,399	0	362,898,970
評価損益等調整前当期経常増減額	△12,836,154	56,653,439	0	43,817,285
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△12,836,154	56,653,439	0	43,817,285
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	2	0	0	2
経常外費用計	2	0	0	2
当期経常外増減額	△2	0	0	△2
当期一般正味財産増減額	△12,836,156	56,653,439	0	43,817,283
一般正味財産期首残高	526,763,097	65,634,433	0	592,397,530
一般正味財産期末残高	513,926,941	122,287,872	0	636,214,813
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	2,012,391			2,012,391
受取助成金	2,012,391			2,012,391
助成金	2,012,391			2,012,391
受取寄付金	185,794,024			185,794,024
指定寄付金	185,794,024			185,794,024
三重ファミリールーム指定寄付金	1,064,000			1,064,000
施設運営指定寄付金	107,941,494			107,941,494
奨学金指定寄付金	76,788,530			76,788,530
特定資産評価損益	△3,884,436			△3,884,436
一般正味財産への振替額	△210,558,617			△210,558,617
指定寄付金	△208,546,226			△208,546,226
受取助成金等	△2,012,391			△2,012,391
当期指定正味財産増減額	△18,867,766			△18,867,766
指定正味財産期首残高	2,084,458,178			2,084,458,178
指定正味財産期末残高	2,065,590,412			2,065,590,412
III 正味財産期末残高	2,579,517,353	122,287,872	0	2,701,805,225



正味財産増減計算書内訳表

(単位:円)

科 目	一般会計	ヘアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
財産運用益	5,452,593	591	205	735	5,454,124
普通預金利息	1,697	591	205	735	3,228
定期預金利息	34,761	0	0	0	34,761
投資有価証券利息	5,416,135	0	0	0	5,416,135
受取寄付金	176,389,747	130,693,696	1,064,000	76,788,530	384,935,973
特定寄付金	5,938,070	0	0	0	5,938,070
一般寄付金	170,451,677	0	0	0	170,451,677
受取寄付金振替額	0	130,693,696	1,064,000	76,788,530	208,546,226
受取協賛金	2,500,000	0	0	0	2,500,000
ゴールドリボン協賛金収入	2,500,000	0	0	0	2,500,000
受取補助金等	2,012,391	0	0	0	2,012,391
受取補助金等振替額	2,012,391	0	0	0	2,012,391
受託料	1,690,520	0	0	0	1,690,520
調査研究受託料	990,000	0	0	0	990,000
相談支援受託料	700,520	0	0	0	700,520
受取利用料	264,000	5,557,150	219,100	0	6,040,250
施設利用料	264,000	4,906,000	219,100	0	5,389,100
リネン利用料	0	651,150	0	0	651,150
雑収益	3,531,537	551,460	0	0	4,082,997
雑収益	3,531,537	551,460	0	0	4,082,997
経常収益計	191,840,788	136,802,897	1,283,305	76,789,265	406,716,255
(2) 経常費用					
事業費	92,124,634	136,802,897	3,576,296	101,822,744	334,326,571
人件費	30,082,246	59,541,281	0	4,025,000	93,648,527
法定福利費	3,602,127	7,354,650	0	525,000	11,481,777
給与	23,400,859	52,126,819	0	3,500,000	79,027,678
福利厚生費	0	59,812	0	0	59,812
退職給付費用	3,079,260	0	0	0	3,079,260
助成費	25,278,045	0	0	0	25,278,045
療養助成費	14,878,045	0	0	0	14,878,045
治療研究助成費	7,400,000	0	0	0	7,400,000
調査研究助成費	3,000,000	0	0	0	3,000,000
活動費	36,664,096	48,630,168	1,812,589	1,997,744	89,104,597
会議費	3,101,823	26,649	0	38,822	3,167,294
旅費交通費	8,871,984	732,291	62,000	82,220	9,748,495
通信運搬費	3,592,915	2,073,393	48,194	371,436	6,085,938
消耗品費	845,765	1,831,348	5,473	23,490	2,706,076
修繕費	0	1,186,060	83,160	0	1,269,220
印刷製本費	1,935,993	301,931	0	610,712	2,848,636
光熱水料費	0	10,531,143	399,132	0	10,930,275
保険料	101,016	1,039,630	5,610	0	1,146,256
諸謝金	1,522,975	0	0	0	1,522,975
業務委託費	0	560,520	122,988	0	683,508
広報費	3,448,300	0	0	0	3,448,300
支援費	971,000	0	50,000	0	1,021,000
図書資料費	18,412	114,470	0	10,800	143,682
保健衛生費	0	679,810	100,000	0	779,810
ゴールドリボン制作費	2,527,459	0	0	0	2,527,459
宿泊施設運営費	662,417	0	0	0	662,417
租税公課	6,700	9,170,300	0	0	9,177,000
リネン賃借料	0	426,957	0	0	426,957
事業協力費	2,114,970	0	0	0	2,114,970
会場費	5,443,738	0	0	0	5,443,738
雑費	1,498,629	317,700	26,460	860,264	2,703,053
保守料	0	13,641,852	17,840	0	13,659,692
リース料	0	1,943,290	0	0	1,943,290
植栽管理費	0	82,115	0	0	82,115
借地料	0	0	845,832	0	845,832
衛生管理費	0	2,885,417	45,900	0	2,931,317
消耗什器備品費	0	1,085,292	0	0	1,085,292
減価償却費	100,247	28,631,448	1,763,707	0	30,495,402
建物減価償却額	100,247	25,174,909	1,716,734	0	26,991,890

科 目	一般会計	ヘアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合 計
建物附属設備減価償却額	0	3,271,010	0	0	3,271,010
ソフトウェア減価償却額	0	86,400	0	0	86,400
什器備品減価償却額	0	99,129	46,973	0	146,102
奨学金給付費	0	0	0	95,800,000	95,800,000
奨学金給付費	0	0	0	95,800,000	95,800,000
管理費	28,572,399	0	0	0	28,572,399
人件費	19,586,137	0	0	0	19,586,137
給与	14,835,404	0	0	0	14,835,404
法定福利費	2,673,273	0	0	0	2,673,273
福利厚生費	24,620	0	0	0	24,620
退職給付費用	2,052,840	0	0	0	2,052,840
活動費	8,415,647	0	0	0	8,415,647
会議費	7,307	0	0	0	7,307
旅費交通費	1,248,279	0	0	0	1,248,279
通信運搬費	724,574	0	0	0	724,574
消耗品費	70,422	0	0	0	70,422
修繕費	14,580	0	0	0	14,580
印刷製本費	977,468	0	0	0	977,468
図書資料費	48,444	0	0	0	48,444
保守料	551,328	0	0	0	551,328
リース料	1,714,219	0	0	0	1,714,219
支払報酬	1,881,900	0	0	0	1,881,900
租税公課	78,150	0	0	0	78,150
消耗什器備品費	162,540	0	0	0	162,540
雑費	936,436	0	0	0	936,436
減価償却費	570,615	0	0	0	570,615
ソフトウェア減価償却額	242,566	0	0	0	242,566
什器備品減価償却額	328,049	0	0	0	328,049
経常費用計	120,697,033	136,802,897	3,576,296	101,822,744	362,898,970
評価損益等調整前当期経常増減額	71,143,755	0	△ 2,292,991	△ 25,033,479	43,817,285
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	71,143,755	0	△ 2,292,991	△ 25,033,479	43,817,285
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
固定資産除却損	0	2	0	0	2
経常外費用計	0	2	0	0	2
当期経常外増減額	0	△ 2	0	0	△ 2
当期一般正味財産増減額	71,143,755	△ 2	△ 2,292,991	△ 25,033,479	43,817,283
一般正味財産期首残高	523,355,260	77,156,276	19,522,963	△ 27,636,969	592,397,530
一般正味財産期末残高	594,499,015	77,156,274	17,229,972	△ 52,670,448	636,214,813
II 指定正味財産増減の部					
受取補助金等	2,012,391	0	0	0	2,012,391
受取助成金	2,012,391	0	0	0	2,012,391
助成金	2,012,391	0	0	0	2,012,391
受取寄付金	0	107,941,494	1,064,000	76,788,530	185,794,024
指定寄付金	0	107,941,494	1,064,000	76,788,530	185,794,024
三重ファミリールーム指定寄付金	0	0	1,064,000	0	1,064,000
施設運営指定寄付金	0	107,941,494	0	0	107,941,494
奨学金指定寄付金	0	0	0	76,788,530	76,788,530
特定資産評価損益	△ 3,884,436	0	0	0	△ 3,884,436
一般正味財産への振替額	△ 2,012,391	△ 130,693,696	△ 1,064,000	△ 76,788,530	△ 210,558,617
指定寄付金	0	△ 130,693,696	△ 1,064,000	△ 76,788,530	△ 208,546,226
受取助成金等	△ 2,012,391	0	0	0	△ 2,012,391
当期指定正味財産増減額	3,884,436	△ 22,752,202	0	0	△ 18,867,766
指定正味財産期首残高	105,798,528	1,748,021,553	18,548,842	212,089,255	2,084,458,178
指定正味財産期末残高	109,682,964	1,725,269,351	18,548,842	212,089,255	2,065,590,412
III 正味財産期末残高	704,181,979	1,802,425,625	35,778,814	159,418,807	2,701,805,225



1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療が受けられることを願い、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的として、創設当時から今日まで継続している事業です。創設当時は、高額な小児がんの治療費のほとんどが自己負担でしたが、現在は一部を除き公費負担となっています。しかし、治療期間が長期にわたること、保護者の付添いによる二重生活やきょうだいの保育などさまざまな負担が生じていることに変わりはありません。当事業は、経済的な援助を主軸にスタートし、現在では、闘病中のご家族が病院のソーシャルワーカーやさまざまな社会制度などの資源とつながるための入り口としての役割も果たしています。時代や療養環境の変化に対応するため、2016年度より改定を行い、従来「一般療養助成」と「特別療養助成」の2種類に分かれていたものを一つの「療養援助制度」に改めました。対象者、対象事項等は以下の通りです。

対象者 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療中の患児の家族（一疾病で一回限りの援助）で、以下の条件に該当する場合

- 1) 給与所得者：前年の課税所得（源泉徴収票の「給与所得控除後の金額」から、「所得控除後の金額」を引いた額が400万円以下の場合
- 2) 自営業者：前年の確定申告書Bの「課税される所得金額（26）」（専従者がいる場合は「課税される所得金額（26）」に「専従者給与（控除）額の合計額（50）」及び「青色申告特別控除額（51）」を加算した金額が400万円以下の場合

援助対象事項 1) 抗腫瘍治療中で入院療養に必要な対応として①～③のいずれかに該当する場合

- ①以下の治療を要する場合
移植の実施／難治性（転移もしくは再発がある又は有効な治療法がない）のため治療を要する場合／特殊治療が必要
- ②治療上のやむを得ない理由から治療施設と自宅が片道150km以上離れている遠隔地で治療を要した場合
- ③未就学児のきょうだいがいる場合

2) 抗腫瘍治療中で入院・外来を問わず課税所得100万円（生計を一にする親族に所得がある場合は合算）以下の世帯（生活保護受給世帯を含む）

援助対象期間 申請書受理日から遡って3ヶ月間

援助の決定 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、援助内容・金額を決定する。

■本年度決定実績

2018年度	
決定実績	155件
援助決定総額 (1件当たり平均)	14,878,045円 (95,987円/件)

本事業は、大原小児がん基金、日本労働組合総連合会「愛のキャンパ」、NPO法人酒は未来を救う会、有限会社吉半、一般社団法人ザ・レジェンド・チャリティプロアマトーナメント実行委員会、モルガン・スタンレーからの寄付をいただきました。

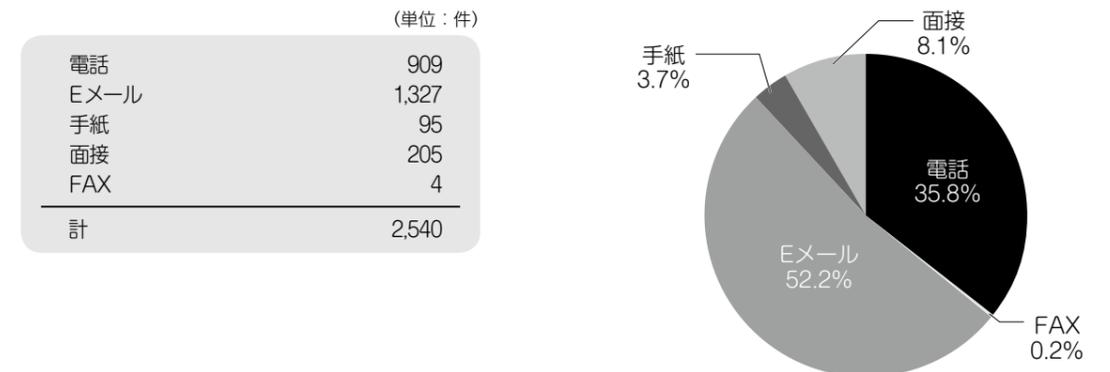
2 相談事業及び関連事業

(1) 小児がん相談事業

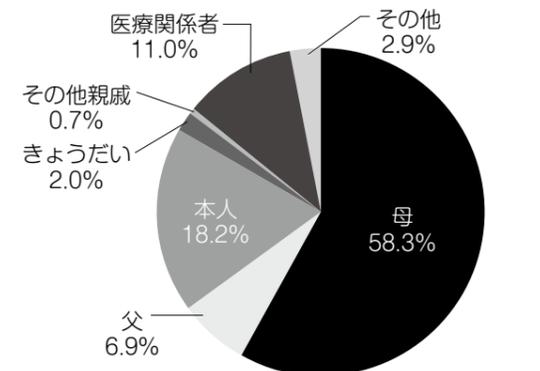
小児がん患児・家族は、数ヶ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。加えて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族に対して、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また子どもが亡くなった後も、継続的なサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーによる相談事業を開始し、以来40年以上相談支援を行っています。2018年度は、東京・大阪両事務所に常駐するソーシャルワーカーが計5名体制で相談に応じました。ご相談内容としては療養生活、とくに家族やきょうだいについてなどが多くみられたほか、治療中の経済的問題についてや、治療後の晩期合併症についてのご相談もかわらず多くありました。また、ペアレンツハウスを利用されている方からのご相談など、直接お顔を合わせる機会も多くありました。（詳細は下記をご参照ください）。

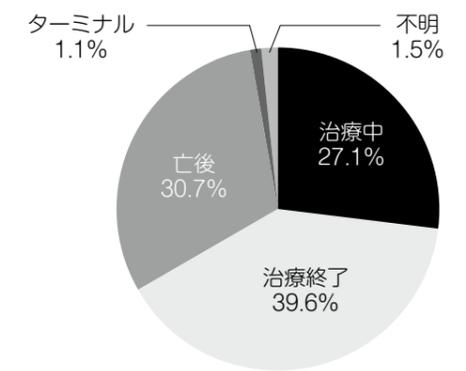
1. 相談方法



2. 相談者属性

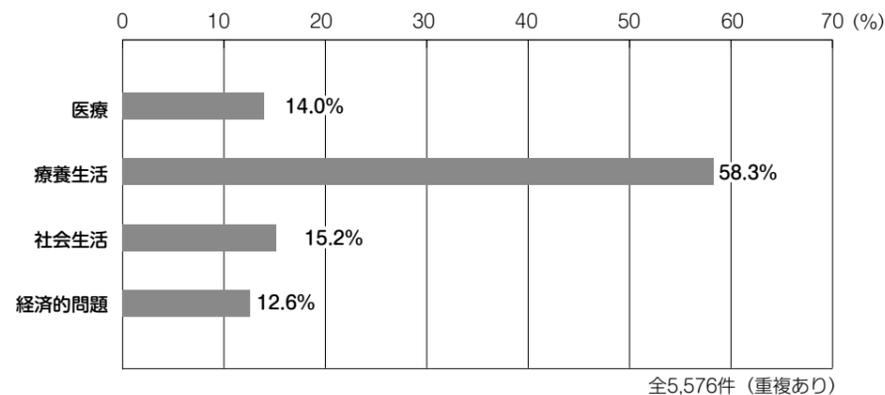


3. 相談時期





4. 相談内容



※上記の各集計分類に含まれる内容は、以下の通りです。

医療：心理社会的、治療、晩期合併症、医療者との関係、セカンドオピニオン等

療養生活：心理社会的、グリーフ、近況、親の会・経験者の会について、家族・きょうだいについて、宿泊等

社会生活：心理社会的、自立、教育、就労、保育等

経済的問題：療養援助事業、社会制度、心理社会的、保険等

(2) 小児がん こどもでんわ相談室

2015年8月より、「小児がん こどもでんわ相談室」（フリーダイヤル：0120 - 307 - 164）を開設しました。毎月第1水曜日（祝日の場合は翌週）の16時から19時に、小児がんについての悩みや不安、疑問などに、ソーシャルワーカーと小児科医（奇数月）がお応えしています。「小児がん こどもでんわ相談室」の周知のために、小児がん拠点病院、小児がん診療病院、保健所等にチラシやカードを配置していただいています。

(3) 相談会の開催

患児・家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

個別相談会

年月日	内容	相談医	会場
2018年9月5日	小児がん全般（グリーフなど）	細谷 亮太 当会囑託医／聖路加国際病院 小児科	東京（本部）
2019年2月8日	脳腫瘍	柳澤 隆昭 東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科	東京（本部）
2019年3月22日	小児科	前田 美穂 日本医科大学付属病院 小児科	東京（本部）

(4) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス浅草橋・亀戸（東京）、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年12回開催しました。会は、母親の会、父親の会、家族の会、ひとりっ子を亡くされた親の会、闘病期間の短かったご家族というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカー司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。

②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しています。

2018年度は、2018年5月23日～6月27日の期間に東京、亀戸事務所にて開催し、5名が参加しました。グループの開催前に参加者と個別の事前面接を行ったうえで、ソーシャルワーカー同席のもと、毎週1回、原則90分の集まりを計6回持ち、各回とも異なるテーマのもとに話し合いを行いました。グループ終了後には再び参加者と個別に事後面接を行いました。

〈サポートグループの同窓会〉

サポートグループが終了した後は、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後の2回にわたり同窓会と称した集まりをもっています。

2017年度春のグループの1年後の同窓会を2018年6月21日に4名の方の参加で、2018年度春のグループの半年後の同窓会を2019年1月16日に5名の方の参加で亀戸事務所にて開催されました。

(5) 小児がん経験者への支援活動

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

2018年度は6月9日に、がんの子どもを守る会亀戸事務所にて開催し、新しく発足した2団体も含めた全国から5団体12名が参加しました。今年は小児がん経験者の会のリーダーだけでなく、小児がん経験者で会のメンバーとして活動したい方にもご参加いただき、ピアサポート研修を中心としたプログラムを行いました。ピアサポート研修後は、経験者の会の広報方法や運営についてなど意見交換をおこない有意義な時間となりました。

②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。2018年度は6団体に計12万円の活動費の支援を行いました。また、小児がん経験者による企画（プロジェクト）に対する助成金として、RBピアサポートの会「網膜芽細胞腫の遺伝とその出産を取り巻く医療体制の現状」セミナーに10万6千円の支援を行いました。

③Fellow Tomorrow（フェロー・トゥモロー）／WISHへの支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow（フェロー・トゥモロー）」の2018年6月17日に開催された総会に当会ソーシャルワーカーが参加した他、運営の助言や参加者への支援を行いました。また、2000年に発足した東海地域の小児がん経験者の会「WISH」についても、ソーシャルワーカーが運営の助言や参加者の支援を行いました。

④スマートムンストーンキャンプ

2018年8月24日から26日まで、山梨県北杜市の清里高原にあるキープ自然学校にて、第21回スマートムンストーンキャンプ（SMS）を開催いたしました。

SMSは告知をされて小児がん向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。「病気について説明を受けている子どもたちが多数派になるまで見守る」という初期の目的は達成されましたが、これからもこのキャンプで築か



れた子どもたちのつながりを深くするため、そして新しい仲間を迎えるために、これまでのスマートムンストーンキャンプを礎として2011年より小児がん経験者が主体となって運営するキャンプを開催することになり、2012年度からは公益財団法人がんの子どもを守る会の事業として、ボランティアを中心とした実行運営グループが企画運営をしながら、新たなスタートを切っています。

2018年度は参加者22名、ボランティア23名、キャンプリーダーの稲田浩子先生（佐賀県医療センター好生館小児科）と小児がん経験者のボランティアリーダー5名を含む実行運営グループ12名の計57名で開催されました。なお、本事業は毎日新聞東京社会事業団のご寄付によって運営されています。

協賛：毎日新聞東京社会事業団

協力（物品提供）：スタイリングライフグループ、株式会社ガイア

②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として、富士山にアタック!! 参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのきょうだいの交流会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どものきょうだいたちが中心となって企画・運営をし、「てんとうむし」と名付けられました。これはテントウムシ（天道虫）が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、「子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ」という意味を込めています。同じ小児がんの子どものきょうだい同士が、こころにとめている想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感をもてる場として、10月28日の親睦会と3月24日の交流会の計2回を開催し、初参加のきょうだいもあり、充実した時間を過ごしました。

(6) 親の会支援

①親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

22回目となる2018年度は、6月24日に東京都立小児総合医療センターを拠点として活動する親の会「菜の花の会」の幹事のもと開催され、全国から29団体54名の参加がありました。当日は、東京都立小児総合医療センター血液・腫瘍科部長の湯坐有希先生から「拠点病院としての都立小児の取り組みについて」との題で分子標的薬や分化誘導療法など新しい治療法、長期フォローアップ手帳や東京都における小児がん診療連携体制など有用な情報を、また、東京都立小児総合医療センター内武蔵台学園府中分教室のわかば学級コーディネーターの古畑晴美先生からは復学時の準備や配慮事項について具体的な事例を踏まえた「復学について」の講演をしていただきました。その後、院内親の会と疾患別などの親の会毎にグループに分かれ、親の会の役割と課題について活発な意見交換が行われ、充実した1日となりました。

②活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は、26団体に計74万5千円の活動費の支援を行いました。

(7) きょうだいの支援

①富士山にアタック!! 2018

小児がんの子どものきょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。当会では、2001年より毎日新聞社の支援を受け、小児がん患児のきょうだいのための富士山キャンプを行っています。

18回目となる2018年度は7月28日～7月30日の日程で開催し、小児がんの子どものきょうだい18名、ボランティア14名、他、医師及び当会職員等を含む合計37名が参加しました。初日は、雨天のため宿泊先の宿でのレクリエーションを通して親睦を深めました。翌日は台風の影響で早朝からの登山が難しかったため午前中は、富士山世界遺産センターでワークシートをおこない、午後富士山5合目～6合目まで皆一緒に登山をしました。また、最終日は西湖コウモリ穴と周辺散策をしました。キャンプ中「きょうだいたちのお話し会」も開催し、同じ思いを分かち合うとともに、お互いを知り理解を深める機会となりました。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、毎日新聞東京社会事業団

協力（物品提供）：株式会社ガイア、スタイリングライフグループ

3 治療研究事業

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治療、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とし、小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、23件（助成総額7,400,000円）を助成いたしました。

〈2018年度 治療研究助成一覧〉

（助成期間：2018年10月1日～2019年9月30日）

氏名（敬称略：順不同）	所 属	研究名称
五十嵐健太郎	金沢大学 医薬保健学総合研究科 先進運動器医療創成講座	シスプラチン抵抗性難治性骨肉腫に対する 高骨親和性新規プラチナ製剤を用いた新規治療開発
香川 尚己	大阪大学大学院医学系研究科 脳神経外科	小児脳腫瘍長期生存者における白質障害および血管障害の現状と 神経心理学的評価とQOL調査の関係に関する研究
加藤 格	京都大学医学部附属病院 小児科	小児悪性腫瘍の終末期に関する後方視的観察研究
上別府圭子	東京大学大学院医学系研究科 健康科学・ 看護学専攻家族看護学分野	乳児急性リンパ性白血病臨床試験（JPLSG-MLL-17）における乳児と 家族のQOL
菊池 次郎	自治医科大学 分子病態治療研究センター 幹細胞制御研究部	中枢神経浸潤を伴う小児白血病に対するエピジェネティック療法の開発
菊地 顕	京都府立医科大学 小児科学	横紋筋肉腫における脂質代謝調整剤の効果の検討
木嶋 教行	国立病院機構 大阪医療センター 脳神経外科	髄芽腫におけるリキッドバイオプシーの可能性についての検討
木村 俊介	東京大学 小児科	小児T細胞性急性リンパ性白血病における次世代シーケンサーを用いた統合 的ゲノム・エピゲノム解析およびPDXマウスモデルを用いたSPI1/ PU.1融合遺伝子の分子プロファイリングと新規克服法の開発
呉 壮香	日本医科大学 統御機構診断病理学	小児甲状腺癌の発生機序の解明と臨床病理学的検討
慶野 大	聖マリアンナ医科大学 小児科	女性がん患者・サバイバーの妊孕性温存を志向して行われた卵巣組織凍結保存切片に おける腫瘍細胞混入をdroplet digital PCRを用いて評価する方法の整備



櫻井 英幸	筑波大学・医学医療系 放射線腫瘍学	小児・AYA世代の腫瘍に対する陽子線治療診療ガイドライン作成と出版
笹川 泰雄	金沢大学 医薬保健研究域医学系 脳神経外科学	頭蓋内胚細胞腫における内分泌機能障害とQOLの実態および影響因子の解析
佐野 秀樹	福島県立医科大学附属病院 小児腫瘍内科	初回再発ユーイング肉腫ファミリー腫瘍に対するトポテカン+イフォスファミド (TI) 療法の第II相試験
スタッフ由紀子	金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 薬学専攻 臨床薬物情報学研究室	小児急性リンパ性白血病・悪性リンパ腫におけるステロイド誘発性精神障害の重症度評価および危険因子の解析
関口 昌央	東京大学医学部附属病院 小児科	マルチオミックス解析を用いた肝芽腫のバイオロジー解明と高リスク群に対する治療標的の同定
孫 継英	広島大学原爆放射線医学研究所 細胞修復制御研究分野	治療関連性白血病の11q23染色体転座形成の分子機構の解明
田中 祐吉	神奈川県立こども医療センター 臨床研究所	小児腫瘍のグループスタディに有用な病理組織分類アトラスの適時リニューアルおよび小児腫瘍病理診断の教育研修活動
土屋 雅子	国立がん研究センター がん対策情報センター がんサバイバーシップ支援部	小児期、AYA期発症がん経験者の初めての就職活動における、病气開示意志決定支援ガイドの実用性評価と教育機関における導入評価
長谷川大一郎	兵庫県立こども病院 小児がん医療センター 血液・腫瘍内科	転移性ユーイング肉腫ファミリー腫瘍に対する標準治療の開発に関する研究
福光 延吉	兵庫県立粒子線医療センター附属 神戸陽子線センター 放射線治療科	小児がん放射線治療の啓蒙と発展を目指した研究会の開催
松井 基浩	東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科	シスプラチン関連腎障害の予防を意図したマグネシウム補充療法のランダム化第II相臨床試験
山崎 文之	広島大学病院 脳神経外科	小児中枢神経原胚細胞性腫瘍の長期予後因子の解析
渡邊健太郎	東京大学大学院医学系研究科 生殖・発達・加齢医学 小児科	多属性オミックス解析による神経芽腫の分子遺伝学的基盤解明と新規治療標的創出

4 総合支援施設運営事業

(1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは、亀戸(東京都江東区亀戸、2001年2月開設)、浅草橋(東京都台東区浅草橋、2004年12月開設)、大阪(大阪府大阪市中央区、2010年1月開設)の3か所あります。小児がんなど難病の患児・家族に寄り添う、日本で最初の総合支援センターとして運営を開始しました。これまで宿泊部門では、3棟で延べ137,806名の方にご利用いただいております。

アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸がリニューアルオープンをしてから1年が経ちました。ペアレンツハウス亀戸では、浅草橋と同じように通院や入院中のご家族にも宿泊利用していただいておりますが、亀戸特有の利用方法として、講演会や交流会などのイベントに遠隔地から参加される方や、より幅広い利用者にご活用いただけるよう、25歳未満のAYA世代のがん患者・家族にも宿泊していただいております。

また事前申し込み不要のラウンジでは他団体の資料などを閲覧でき、交流会や講演会で約50名の方が入れるセミナールーム、子ども達とのイベントや体を動かす活動にも使っていただける7階の多目的室など、内容に応じた活用が可能です。

ペアレンツハウス浅草橋は、宿泊窓口が1階になったことで、ハウススタッフ以外の職員やソーシャルワーカーも、子ども達やご家族とお顔を合わせる機会が増えました。時期によっては、満室の日もあり、プレイ

ルームやキッチン・ダイニングは、ご家族同士の交流の場にもなっています。

またペアレンツハウス大阪では、夏休みと年末年始に「くじびき」「かたぬき」「さかな釣り」「工作(ペーパークラフト)」のコーナーを用意し、お楽しみコーナーを開催しました。宿泊中のご家族に遊んでいただき、入院中の患児にも病院で遊んでもらえるよう持ち出しセットも準備しました。くじびきコーナーの景品はバトonz基金からのご寄付を活用させていただきました。

なお、運営に関する費用については、アフラック並びにアフラックの社員及び全国の代理店(アフラック全国アソシエイツ会)の皆様からのご支援により賄われ、また、その他にも多くの企業・個人の方々からのご寄贈やボランティア、医療関係者によるご支援もいただきながら運営を継続しています。

■宿泊利用状況

延べ宿泊利用家族数(2018年4月1日~2019年3月31日)
 亀戸(10室) / 82家族(2018年10月から6ヶ月)
 浅草橋(14室) / 432家族
 大阪(12室) / 260家族
 計 774家族



▲大阪

▲浅草橋

◀亀戸(ラウンジ)

(2) その他の宿泊施設

①あかつきハウス

1995年にオープンした、あかつきハウスは、東京都中央区内の病院に遠隔地から治療に来られる子ども達とご家族のための宿泊施設として、区立住宅「築地あかつき住宅」の一室をお借りして管理・運営しているお部屋です。2018年4月1日から2019年3月31日までの間、延べ32家族の利用がありました。

②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。三重ファミリールーム運営委員会(三重大学附属病院小児科内)と当会で管理・運営しています。利用料は1泊1,000円、昼間の利用は300円です。2018年4月1日より2019年3月31日までの間、延べ73家族の利用がありました。

5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患児・家族が抱える制度上の問題点を訴え、発信し続けてきました。当会では会員が国や地方自治体が運営する様々な協議会に患者家族の代表として参画し、政策への意見や提言を活発に述べることができました。

■2018年度要望書提出一覧

- 2018年6月18日 造血幹細胞移植の前治療薬(チオテパ)の早期承認に関する要望書(厚生労働省)
- 2018年8月9日 接種済みワクチン再接種費用助成についての要望書(厚生労働省・各都道府県)



■当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会など

全国	小児がん中央機関アドバイザーボード
	小児・AYA世代のがん医療・支援のあり方に関する検討会
宮城	がん対策推進協議会
	慢性疾病児童等地域支援協議会
福島	がん対策推進協議会
	小児慢性疾患対策協議会
関東	がん対策推進協議会（栃木県）
	がん対策推進協議会ほか（東京都）
	小児がん診療連携協議会（東京都）
新潟	小児慢性疾患対策協議会
	がん対策推進協議会
富山	がん対策協議会
福井	がん対策協議会
	がん治療相談支援部会
静岡	慢性疾病児童等地域支援協議会（県、静岡市）
関西	小児・AYA世代のがん対策部会（大阪府）
岡山	がん対策推進協議会
広島	難病対策推進協議会
香川	がん対策推進協議会
愛媛	がん対策推進協議会
	がん相談支援推進協議会
	慢性疾病児童等地域支援協議会
九州北	がん対策推進協議会（福岡県）
	慢性疾病児童等地域支援協議会（久留米市）
沖縄	がん対策推進協議会
	がん診療連携協議会

6 支部活動

当会には全国に21の支部があります（2019年3月31日現在）。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
4月	北海道	北大病院小児科病棟内茶話会
	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	福井	ピアサポートカフェ（嶺北地区）
	沖縄	ピアサポート
5月	香川	支部総会、講演会「小児がん経験者が大人になる道のり」
	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	宮崎	のぞみ茶話会
	沖縄	ピアサポート
6月	北海道	北大病院小児科病棟内茶話会、はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
	新潟	病棟訪問人形劇、ピアサポート・ママカフェ
	福井	のぞみ福井小児がん公開セミナー
	関西	のぞみトークきんき 2018（ドキュメンタリー映画「風のかたち」上映、細谷亮太先生とのトーク会）、親の会
	広島	支部総会・講演会「小児がんの子どもの教育支援を振り返って」
	愛媛	野外懇親会（BBQ）
7月	北海道	北大病院小児科病棟内茶話会
	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	福井	シンポジウム「AYA世代がんについて」
	高知	ピアサポートカフェ
	九州北	レモネードスタンド in ふくおか
	宮崎	講演会「小児がんの正しい理解、そしてさらなる予後改善に向けて」、のぞみ茶話会
	沖縄	ピアサポート
8月	北海道	北大病院小児科病棟内茶話会
	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	福井	ピアサポートカフェ（嶺南地区）
	香川	交流会、四つ葉のクローバー（小児がん経験者）の会
	沖縄	ピアサポート
9月	北海道	北大病院小児科病棟内茶話会
	福島	個別相談会
	新潟	支部総会、ピアサポート研修会、あおぞらの会（子どもを亡くした親の会）、ピアサポート・ママカフェ
	富山・福井	のぞみ北陸小児がん交流会 in 金沢
	東海	虹の会（子どもを亡くした親の会）
	岡山	交流会
	九州北	第48回講演・交流会「小児がん経験者の長期フォローアップの重要性」
	宮崎	のぞみ茶話会
沖縄	ピアサポート	
10月	北海道	病棟訪問人形劇、はるにれの会（子どもを亡くした親の会）、講演会「もうすぐ退院できそうだけど・・・小児がん患者・家族の不安や心配事」、北大病院小児科病棟内茶話会
	宮城	いも煮会（交流会）
	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	香川	相談会
	沖縄	ピアサポート
11月	北海道	北大病院小児科病棟内茶話会
	宮城	そらの会（子どもを亡くした親の会）
	新潟	あおぞらの会（子どもを亡くした親の会）、ピアサポート・ママカフェ
	宮崎	のぞみ茶話会
	沖縄	ピアサポート
12月	北海道	患児との交流会
	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	福井	ピアサポートカフェ（丹南地区）
	静岡	静岡県東部健康福祉センター共催講演会「子どもの命の傍らで」
	沖縄	ピアサポート



開催月	支部	内 容
1月	宮崎	のぞみ茶話会
	福島	院内プラネタリウム
2月	関東	講演会・交流会「小児血液・がん医療の過去・現在・未来」
	新潟	あおぞらの会（子どもを亡くした親の会）
	関西	近畿小児がん研究会公開シンポジウム「思春期、青年期のがん患者と共に歩む緩和ケア」
	沖縄	ピアサポート
3月	北海道	北大病院小児科病棟内茶話会
	新潟	ピアサポート・ママカフェ
	静岡	交流会
	東海	三重大講演会「当院小児がん長期フォローアップにおける看護師の役割」「小児がんサバイバーとして、小児科医として、今を考える」・相談会、虹の会（子どもを亡くした親の会）
	宮崎	のぞみ茶話会
	沖縄	ピアサポート

※ 他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

(2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に全国 21 の支部幹事を対象に年 2 回開催しております。本年は創立 50 年記念式典に併せて 2018 年 6 月 10 日にペアレンツハウス亀戸（東京）にて 1 回目を開催し、支部活動の情報交換や課題に対するディスカッションを行いました。2 回目は、国際小児がんの会開催に併せて 11 月 15 日にしんらん会館（京都）にて開催し、各支部の交流を図りました。

支部活動の風景



7 広報・啓発・募金活動 等

第 23 回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2018 年 11 月 14 日（水）～11 月 16 日（金）、京都市勧業館 みやこめっせ及びロームシアター京都にて、第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会（会長：細井創）、第 16 回日本小児がん看護学会学術集会（会長：堀妙子）、第 23 回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムが開催されました。

後援：厚生労働省、京都府、京都市、公益社団法人日本小児科学会、特定非営利活動法人日本小児外科学会、一般社団法人日本小児看護学会

■三団体合同公開パネルディスカッション / CCI Education Program

「Life after Childhood Cancer Experience -Overcoming, Coping and Planning」

- ・日 時：2018 年 11 月 16 日（金）10:30～12:30
- ・場 所：ロームシアターサウスホール
- ・座 長：堀 浩樹（三重大学大学院医学系研究科教授）
山下 公輔（公益財団法人がんの子どもを守る会理事長）

・演 者：

“Late effects in adolescent cancer survivors”

Andrea Ferrari（医師）

(Pediatric Oncology Unit, Fondazione IRCCS Istituto Nazionale Tumori)

“The fertility/sexuality issues of childhood cancer survivors”

Louise Soanes（看護師）

(Teenage Cancer Trust Nurse Consultant for Adolescents and Young Adults)

“Experience Sharing: Professional Support, Parenting and Survivors’ Self-initiative - Key to Improve Survivors’ Post-treatment Life”

Patrick Yip（小児がん経験者）

(Pau Kwong Wun Charitable Foundation)

・参 加 者：約 200 名

■チャリティイベント

〈摺型友禅染体験〉

- ・日 時：11 月 14 日（水）～16 日（金）
- ・会 場：京都市勧業館みやこめっせ

〈チャリティウォーク〉

- ・日 時：11 月 15 日（木）12 時集合
- ・観光ガイド付きで岡崎周辺をウォーキング

■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1998 年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。本年度は、全国から寄せられた 50 作品を展示しました。

- ・期 間：11 月 14 日（水）～11 月 16 日（金）
- ・来 場 者：約 700 人

本絵画展は、公益財団法人 JKA「オートレース補助事業」の助成金及び公益財団法人原田積善会とキヤノンメディカルシステムズ株式会社のご寄付、およびモルガン・スタンレーのご協力により開催をいたしました。



■関連団体紹介コーナー

- ・日 時：11 月 14 日（水）～16 日（金）
- ・場 所：京都市勧業館みやこめっせ 1F ホワイエ

小児がんに関係する患者会や支援団体など 23 団体の資料を積み置き展示いたしました。

ブース出展

小児がんの患児・家族への支援を目的にした各種チャリティーイベントや小児がん関連の会合の会場にて、小児がんの現状や当会の活動について周知し、その他募金活動を実施しました。



ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリーを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。

本年度も多くの企業や有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。

※ 500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。本年度は、ピンバッジ9,904個、ストラップ2,965個、スワロフスキー付ピンバッジ200個のご支援をいただきました。(ゴールドリボンの製作費は清水建設株式会社に協賛いただきました。)



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ

常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で58か所に設置のご協力をいただいております。



◀ 常設募金箱

支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国37か所に設置していただいております。



▶ 支援自動販売機

小児がんに関する冊子・資料の発行

より良い療養環境の整備に寄与することを目的として、冊子の発行を行い、患児・家族、小児がん医療に携わる医療者、教育関係者等に配布しました。

国際小児がんデーの活動

2月15日は「国際小児がんデー」です。国際小児がんデーは国際小児がんの会 (CCI: Childhood Cancer International) により創設され、国際小児がん学会 (SIOP: International Society of Paediatric Oncology) など世界的な主要機関のネットワークにより広がっています。当会では、2月1日～3月31日をキャンペーン期間とし、全国的に小児がんの啓発に努めました。また、今年是小児がんの子どもたちを支援する気持ちを身近な人と分かち合ってもらいたいとの想いで、メッセージカード付きのオリジナルチョコレートを用意して、多くの方にお届けしました。

後援：厚生労働省



■啓発チラシ配布及び募金活動

キャンペーン期間中、本部及び支部の主催、または行政機関や医療機関などの協力のもと、啓発チラシの配布や募金活動、小児がんについて考えるイベントなど、全国約50か所以上にて活動を行いました。活動の様子は各地域のメディアでも取り上げられました。

〈小児がんに関連する展示〉

公共施設や医療機関、ショッピングモール等の一角を使い、小児がんの子どもたちが描いた絵画のパネルや小児がんの資料展示を行いました。また、小児がんのシンボルであるゴールドリボンで装飾した「ゴールドリボンツリー」の展示も各地域にて行い、小児がんの認知度向上に努めました。

その他、国際小児がんデーキャンペーンの趣旨にご賛同くださった多数の関係機関、企業、個人の方からのご支援をいただきました。



〈主な協力機関〉

行政

宮城県、文京区、静岡県、長泉町、福井県、岡山市、福岡県、福岡市、飯塚市、北九州市、嘉麻市、桂川町、小竹町、小郡市、鞍手町、佐賀県、鳥栖市、植田市、他

病院

新潟大学医歯学総合病院、新潟県立がんセンター新潟病院、福島県立医科大学、国立成育医療研究センター、都立小児医療センター、国立国際医療センター、神奈川県立こども医療センター、県立静岡がんセンター、県立静岡こども病院、敦賀医療センター、福井県済生会病院、福井県立病院、福井赤十字病院、福井大学附属病院、本馬医院、岡山大学病院、四国こどもとおとなの医療センター、いのうえ小児科、九州大学病院、九州がんセンター、佐賀県健康づくり財団、大分大学医学部附属病院、宮崎大学医学部附属病院、他

企業・団体

明治安田生命保険相互会社、ノバルティスファーマ株式会社、日本チャールス・リバー株式会社、モルガン・スタンレー、神戸フィルハーモニック、大阪エヴェッサ、嘉麻市商工会、他

※ その他、全国多数の商業施設等で募金・啓発活動にご協力をいただきました。

キャンペーンの報告等、詳細はスタッフブログでもご紹介しております。
<http://blog.canpan.info/nozomi/>



▶ ゴールドにライトアップ



8 国際活動

国際小児がんの会（CCI）への参加と協力

■ SIOP (International Society of Paediatric Oncology : 国際小児がん学会) 及び CCI (Childhood Cancer International) 年次総会への参画

小児がんの治療研究に取り組む世界の専門家や家族らが議論を深める SIOP (International Society of Paediatric Oncology : 国際小児がん学会) 及び CCI (Childhood Cancer International : 国際小児がんの会) 年次総会が 2018 年 11 月 16 ~ 19 日、国立京都国際会館 (京都市) で開催され、90 カ国から約 2,500 名の参加があり、過去最高の参加者数となりました。

今回の SIOP 京都は記念すべき 50 回目の開催にあたり、日本国内においては、第 50 回国際小児がん学会国内委員会が組織され、当会も国内組織委員会の主要メンバーとして、オープニングセレモニーの企画、運営や SIOP 京都のボランティアコーディネーターとしての一役を担いました。また、当会による企画として、会場メインホール前にて 39 カ国 75 作品による小児がんの子どもたちの絵画展を、展示エリアにおいては認定 NPO 法人ミルフィユ小児がんフロンティアズと協働し、日本の小児がん親の会や小児がん経験者の会の活動等を紹介するブースを出展しました。

CCI 年次総会には、当会理事長及び職員とともに、公募の上決定した小児がん患児の親 3 名、および小児がん経験者 7 名が参加しました。なお、CCI の加盟国は、2018 年 12 月現在 88 カ国 171 団体となりました。



■ CCI Meet and Greet / CCI Gala Dinner (共催 : 認定特定非営利活動法人 シャイン・オン・キッズ)

CCI 京都に各国から参加する人の交流の場として、CCI Meet and Greet をアマーク・ド・パラディ寒梅館にて開催し約 150 名が参加、CCI Gala Dinner をがんこ高瀬川二条苑で開催し約 100 名が参加しました。

PHPF (Parents Helping Parents Fund) への協力

発展途上国等の CCI 年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に 600 ユーロの寄付を行いました。

9 奨学金事業 (アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度)

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの想いで設立され、2014 年度より奨学金の給付を開始しました。2015 年度より、がん遺児も対象に加えて奨学金を給付しました。なお、本奨学金制度の内容は下記の通りです。

※ 当事業についてはアフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店 (アフラック全国アソシエイツ会) の数多くの方々からご支援を受け運営しています。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 18 歳未満で小児がんを発症した経験者及び、がんにより主たる生計維持者を失った遺児で、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。 ・ 給付開始時に高等学校等に在学中の方。 ・ 申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。 												
対象となる教育機関	「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般課程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」												
給付金額	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月額 25,000 円 ・ 対象となる教育機関で正規の最短修業期間。 ・ 奨学金の返還は原則不要。 												
本年度実績	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>小児がん経験者</td> <td>: 助成件数</td> <td>49 件 (高1 11 件、高2 16 件、高3以上 22 件)</td> </tr> <tr> <td>がん遺児</td> <td>: 助成件数</td> <td>274 件 (高1 59 件、高2 91 件、高3以上 124 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>: 助成件数</td> <td>323 件 (高1 70 件、高2 107 件、高3以上 146 件)</td> </tr> <tr> <td>給付金額</td> <td>: 95,800,000 円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	小児がん経験者	: 助成件数	49 件 (高1 11 件、高2 16 件、高3以上 22 件)	がん遺児	: 助成件数	274 件 (高1 59 件、高2 91 件、高3以上 124 件)	合計	: 助成件数	323 件 (高1 70 件、高2 107 件、高3以上 146 件)	給付金額	: 95,800,000 円	
小児がん経験者	: 助成件数	49 件 (高1 11 件、高2 16 件、高3以上 22 件)											
がん遺児	: 助成件数	274 件 (高1 59 件、高2 91 件、高3以上 124 件)											
合計	: 助成件数	323 件 (高1 70 件、高2 107 件、高3以上 146 件)											
給付金額	: 95,800,000 円												

10 ボランティアコーディネート・研修会

(1) 遊びと学習のボランティア たんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」は、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992 年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院 小児病棟にボランティアを週 1 回派遣し、入院患児を対象に遊びや学習支援活動をおこなっています。

本年度は小児科プレイルームでの遊びの支援が主な活動となりました。また、活動をおこなう上での注意事項、知識や情報交換を目的としたミーティングを 6 回 (隔月)、外部からの講師を招いての研修会を 1 回 (8 月)、当会によるボランティア研修会 (3 月) を開催するとともに、活動報告として「たんぽぽ新聞」を 3 回発行しました。同院のボランティアコーディネーターと積極的な連携を図るとともに、同院ボランティア組織「スマイルボランティア-JIKEI」の調整会議に参加し、より良い関係を築きながら活動をおこなっています。



(2) ボランティアコーディネーター

当会事業推進のために、本部事務所（東京）と大阪事務所で延べ549名からボランティア協力をいただきました。また事務所外におきましても、キャンプ、病院派遣、イベント、自宅作業、全国の支部活動等で多数の個人、団体の方からご協力をいただきました。

当会にてボランティアとして登録されている方には、ボランティア研修会を実施し、事業内容やボランティアとしての心構えなどへの理解を深めていただきました。

11 調査研究協力

■調査研究委託

2018年度の当会会員を対象とした調査研究の申請は1件あり、調査研究委員会にて審議した結果、被調査者の協力はいたしませんでした。

■研究協力

2018年度は下記研究に携わりました。

研究名称	協力内容
厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業） 「思春期・若年成人（AYA）世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究」班 研究代表者 清水千佳子（国立研究開発法人国立国際医療研究センター 乳腺腫瘍内科）	委託研究
厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業） 「小児期に発症する遺伝性腫瘍に対するがんゲノム医療体制実装のための研究」班 研究代表者 熊本忠史（国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍科）	研究協力
「初発の頭蓋内原発胚細胞腫に対する放射線・化学療法第Ⅱ層臨床試験」 松谷 雅生（埼玉医科大学国際医療センター 脳・脊髄腫瘍科）	実行委員会委員

12 創立50年記念式典

当会の創立50年を記念して、2018年6月9日如水会館（東京都）において「創立50年記念式典」を開催いたしました。この式典は、50年の長きに亘り、当会の活動に対して数多くの皆さまからのご理解とご支援に御礼することをその趣旨とし、「感謝」を表す集いの場といたしました。

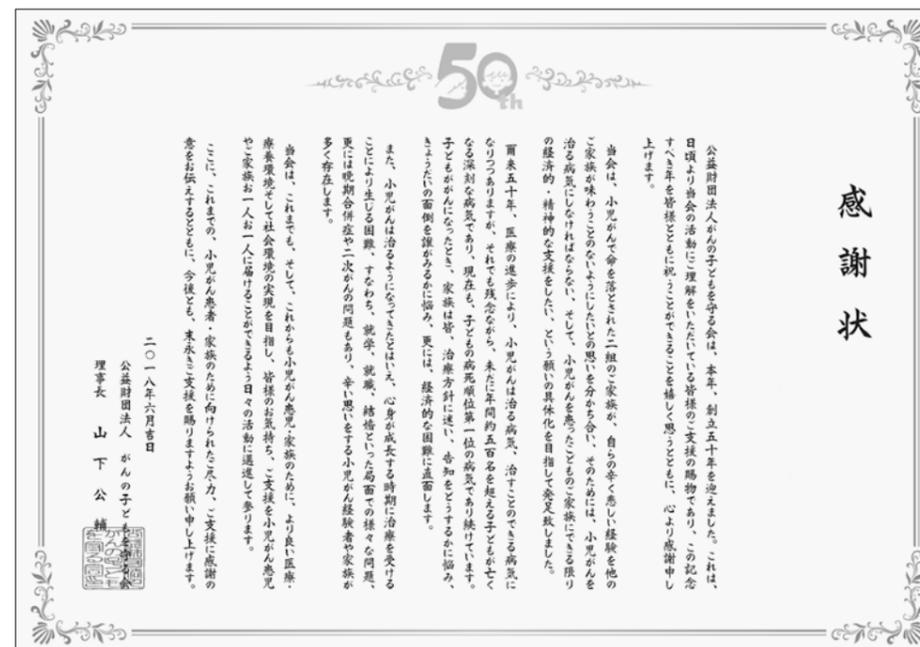
式典は二部構成とし、第1部においては、これまでの小児がん医療とこれからの小児がん医療の変化についての内容の講演があり、そして2部では「感謝の集い」と題して記念祝賀会を催しました。当日は、50年の節目ということもあり、多くの会員や医療者、支援者、ボランティアの方々にご来場いただき、参加者は約270名と盛況なうちに記念式典を終了しました。

また、創立50年記念誌（創立時から現在に至る当会の軌跡を、10年を一つの単位として編纂）を発行し、本式典にご来場いただいた皆様に配布いたしました。

創立50年記念式典 式次第

■第1部 創立50年記念講演会（15：00～17：00）	
挨拶・司会 公益財団法人がんの子どもを守る会 理事長	山下 公輔
来賓挨拶 東京都知事	小池 百合子
・「小児がん医療の50年」 聖路加国際病院 顧問	
公益財団法人がんの子どもを守る会 副理事長	細谷 亮太
・「これからの小児がん医療～ゲノム医療への期待」 国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長	
	中釜 斉
■第2部 感謝の集い（17：30～19：30）	
司会 公益財団法人がんの子どもを守る会 九州西支部幹事	
テレビ長崎 報道局長／元 アナウンサー	松本 祐明
17:30 一開会の辞	公益財団法人がんの子どもを守る会 理事長
	山下 公輔
17:35 一来賓祝辞	
・厚生労働大臣 加藤 勝信	
（代読／厚生労働省健康局 がん・疾病対策課長 佐々木 昌弘）	
・毎日新聞社 代表取締役会長 朝比奈 豊	
・一般社団法人日本小児血液・がん学会 理事長	
広島大学小児外科教授 檜山 英三	
17:50 一乾杯	
小児がん経験者・がん遺児奨学金制度選考委員会 委員長	
早稲田大学 総長 鎌田 薫	
歓談	
19:05 一感謝状の贈呈	
19:15 一閉会の辞	公益財団法人がんの子どもを守る会 副理事長
	近藤 博子

当日の式次第にある通り、小児がんについて社会的・医療的に造詣が深い各界を代表する皆様の挨拶があった後、式典中盤には、過去50年間で長年ボランティアとしてご協力いただいた方、多大なご寄付をいただいた方、長年当会の役員や支部幹事として活動いただいた方に、感謝状を謹呈いたしました。



▲ 謹呈した感謝状



▲ 創立50年記念式典記念撮影



寄付・募金者一覧

(2018年4月1日～2019年3月31日)

50年記念誌

設立50年の節目を迎え、当会の設立から半世紀にわたって小児がんの患児・家族の会として活動を顧み、その記録を次世代につなげるための記念誌の編纂を行いました。

- ・全82ページ



▲ 記念誌表紙



▲ 記念誌

13 企業・団体からのご協力 (敬称略・順不同)

物品寄付

アフラック生命保険株式会社、イーオクト株式会社、インテリム株式会社、水戸好文ロータリー、明治安田生命保険相互会社、株式会社ガイア、アフラックお客様サービス推進部、モルガン・スタンレー、アフラック秋田アソシエイツ会、第一生命保険株式会社、第一生命労働組合、アフラック久富、アフラック青森県アソシエイツ会、アフラックアソシエイツ会長崎支社、株式会社大和証券グループ本社、一般社団法人霞会館、FWD 富士生命保険株式会社、第一三共ヘルスケア株式会社、日本児童文芸家協会、CFJ 合同会社、株式会社保険オフィスさとう、株式会社フロムジャパン、株式会社第一総合企画、丸石製菓株式会社、第一生命保険会社・DLS社、バトンズ基金、愛知総合アソシエイツ会、アフラック愛媛アソシエイツ会、アフラック近畿法人アソシエイツ会、大阪府宅地建物取引業協会中央支部、株式会社KANSOU、丸全商事株式会社、他

ご招待

アフラック生命保険株式会社、認定特定非営利活動法人朴の会、キャノンメディカルシステムズ株式会社、毎日新聞社、川島成道音楽事務所、栗山巧 (埼玉西武ライオンズ)、新日本フィルハーモニー交響楽団、読売新聞大阪本社/バトンズ基金

募金活動、他ボランティア活動

アフラック生命保険株式会社、モルガン・スタンレー、門田かず子 (ラ・ヴィータアンサンブル)、第一生命保険株式会社、神戸フィルハーモニック、トライム、社会福祉法人成晃会神戸海岸特養ケアセンター、鹿島建設大阪重粒子線施設職長会 GANS、南都銀行新大阪支店、ザ・リッツカールトンホテル大阪、BCホールディングス株式会社、アフラック保険サービス株式会社、スタイリングライフグループ、EAファーマ株式会社、大原薬品工業株式会社、キャノンメディカルシステムズ株式会社、株式会社カスタマーリレーションズテレマーケティング、大阪エヴェッサ、他

～その他、支部においてもたくさんの企業・団体さまからご支援いただきました～

寄付者一覧

※敬称略

A.FAMILY株式会社 AGCマイクロガラス株式会社 CBC株式会社 Harvey Paul A.S. JFE商事株式会社 JFEスチール株式会社 NPO法人 目黒ユネスコ協会 NPO法人 まちかど保健室You SOMPOちきゅう倶楽部 St.Baldrick's Foundation Value Investing Academy Pte Ltd 相川 勝 相澤 万電子 愛知製鋼株式会社 相原 大和 青木 千賀 青木 嘉仁 秋本 俊治 秋山 恵子 秋山 賢二 秋山 由里子 明吉 小百合 アクサ宮組鹿児島支部北薩分会 浅野 通直 阿佐美 和男 浅見 美紀 葦原 あつ子 アストラゼネカ株式会社 東 裕也 アフラック生命保険株式会社 社会公共活動推進室 アフラック コミュニケーションサービス部 アフラック 横浜支社 アフラック・ハートフル・サービス株式会社 アフラック 経営数理部 アフラック生命保険株式会社 アフラック三重県アソシエイツ会 阿部 光恵 アボットジャパン株式会社 天瀬 毅 天野 功二 天野 幸子 天野 有紀子 アムンディ・ジャパン株式会社 新井 孝史 荒木 真悟 安斎 紀 ensemble espoir 安藤 なおゆき 安藤 頼枝 飯塚 敦夫 飯野 勝範 五百川 麻子 五十嵐 香織 五十嵐 央 石井 隆 石井 正之 イシイキミコ	石梶 裕 石上 久美 石川 孝成 石嶋 瑞穂 石橋 昶志 石橋 裕史 石原 節子 和泉 憲子 泉 由幸 泉澤 奈津代 磯部 直美 市川 瑞穂 一瀬 すみ 伊月 真砂子 一般財団法人 医療情報健康財団 一般財団法人 凸版印刷三幸会 一般財団法人 緑風会 一般社団法人 信託協会 一般社団法人 全国銀行協会 一般社団法人 全国心臓病の子どもを守る会 一般社団法人 サンドチリイカアトナル新薬 一般社団法人 生命保険協会 一般社団法人 日本ガス協会 一般社団法人 日本建設業連合会 一般社団法人 日本民営鉄道協会 一般社団法人 不動産協会 伊藤 尚子 伊藤 由希 伊藤忠商事株式会社 稲田 浩子 稲畑産業株式会社 犬丸 直佳 井野 冬美 井上 俊男 井上エージェンシー有限公司 猪瀬 春生 伊野波 盛俊 伊野波 盛郁 いばしん保険センター株式会社 今井 正 今井 千速 今里 千恵子 井村 律子 井本 圭祐 医療法人 幸善会 前田病院 岩倉 良昭 岩越 祥晃 岩佐 瑞枝 岩瀬 孝志 岩田 吉郎 岩谷産業株式会社 ゆうた 岩出 智子 岩手コープ・アイ株式会社 インテリムホールディングス株式会社 植草 けいこ 上島 亮	ウェスプ ベーター 植松 勝 内田 裕之 内野宮 ふよ子 内海 春代 海のそばのカフェ bliss point 江戸 靖浩 NPO法人 酒は未来を救う会 榎本 武 江原 貴実子 遠藤 明 大浦 幸子 大木 綱雄 大久保 明 大久保 照子 大久保 俊樹 大久保 一恵 大蔵 隆彦 大阪ヴァイオレットライオンズクラブ 大澤 玲子 大島 泰子 大須賀 ひさ子 オースティン 薫 太田 為治 太田 浩史 大津 真由美 大槻 雄一 大野城ライオンズクラブ 大場 幸夫 大原小児がん基金 大引 啓次 大山 紀子 大和田 早苗 岡田 茂雄 岡田 羊子 岡部 美樹 岡部 康晴 岡本 綾子 岡本 綾乃 岡本 英理子 岡本 幸一 岡本 武 岡本 光代 小川 明 ジュテーム 坂戸 沖田 直子 奥 マサ子 奥野 達也 奥山 佑子 尾崎 亜矢子 尾崎 卓治 尾崎 雅子 小澤 未央 小田切 喜一 落合 章 落合 仁 鬼塚 雅直	小野 智久 小野 裕也 おのうえこどもクリニック 小野薬品工業株式会社 海田 由美子 花王株式会社 香川大学医学部付属病院 赫多 久美子 鹿児島市母子保健課 鹿児島大学病院地域医療連携センター 鹿児島中央ライオンズクラブ 笠井 功治 笠井 千晴 梶山 祥子 片倉 政人 勝瀬 求 加藤 鐵雄 加藤 友和 加藤 仁義 加藤 廣久 加藤 正彦 金井 典子 金井 由紀子 金山 直司 金子 武行 兼松株式会社 株式会社 MARRON MARRON 株式会社 一の宮カントリー倶楽部 株式会社 草むしり 株式会社 孝喜屋 株式会社 俵屋 株式会社 吉半 株式会社 BAN style 株式会社 Gzブレイン 株式会社 Human 株式会社 KANSOH 株式会社 アコーセラミック 株式会社 インクローバー 株式会社 エイティ 株式会社 Agent 株式会社 OKAZAKI 株式会社 カスタマーリレーションズマーケティング 株式会社 グローウィング 株式会社 神戸製鋼所 株式会社 材料屋 株式会社 三平商会 株式会社 資生堂 株式会社 相建 株式会社 高橋組 株式会社 チョイス 株式会社 デンソー 株式会社 トッフフェリーチェ 株式会社 なゆた 松浦 知子 株式会社 日幸金属工業所 株式会社 日東 株式会社 日本製鋼所
---	--	--	---



株式会社 ニヤクコーポレーション 株式会社 ビーエル 株式会社 ビースプランニングカンパニー 株式会社 ビーライン 株式会社 日立ハイテクノロジーズ 株式会社 ファミリーライフYOU 株式会社 ファンコミュニケーションズ 株式会社 Fortune KK 株式会社 フォーライフ 株式会社 フォーライフ 駒川店 株式会社 フォーライフ 垂水駅前店 株式会社 フォーライフ 岩出店 株式会社 フォーライフ 岩出店 株式会社 フォーライフ 岩出店 株式会社 プラスワン 株式会社 フレーズ 株式会社 ヘルスファミリー 株式会社 宝寿 株式会社 ホリスター ダンサック 株式会社 三井E&Sホールディングス 株式会社 メディカル・アイ・ファミリー 株式会社 ヤコビネスサービス 熱田 雅代 株式会社 淀川製鋼所 株式会社 ワールドアイコーポレーション 株式会社 ワールドファミリー 嘉麻市商工会女性部 嘉麻市商工会 鎌田 政之 上別府 圭子 亀井 美智 軽部 裕美子 河合 洋子 川口 弘二 川口 和華子 河島 由衣 川田 万里子 河野 千怜 柑本 光彦 菊原 邦夫 岸田 恭二 岸本 新平 喜多 泰子 北岡 経子 北原 義明 北村 眞法 北村 基郎 北山 聡美 キッコーマン株式会社 鬼頭 秀行 木下 成顕 木原 陽佑 木村 建 木村 吉隆 きもべつ喜らめきの郷 キヤノメディカルシステムズ株式会社 九州大学病院 協和発酵キリン株式会社 草薙 陽子 楠井 昂 久保 香 久保田 一男 窪田 貢 窪田 幸恵 熊谷 佐織 隈崎 哲也 熊本歯科衛生士専門学校	熊本第1ライオンズクラブ事務局 榎沢 静枝 クリアゴルフフィールド 黒木 智 黒羽 薫 桑原 浩 げんき保育園 小泉 利充 公益財団法人 原田積善会 株式会社 セイブクリーン 鍋島 宏昭 東田 元美 高知医療センター すこやかA 合同会社 MAM&d. 鴻池・平井特定建設工事共同体 興和株式会社 興和創薬株式会社 コカ・コーポラトラスジャパン株式会社 古賀印刷株式会社 成育医療センター こぞくら幼稚園 小島 昌子 小杉 隆一 コットンキャップの会 後藤 雅 子ども食堂「憲坊」 小西 洋子 小林 浩子 小林 宗一 小宮 毅 小宮山 めぐみ 小室 雄史 小室 陽一 小森谷 祐美子 コリ 都三女 コリ 浩二 紺野 浩二 財津 克典 齋藤 知弥 斎藤 正博 酒井 あゆみ 坂井 恵子 酒井 信夫 坂井 奈津美 堺 久枝 榊原 悠児 榊原 義夫 坂下 徹 坂田 浩章 坂田 年 酒徳 浩之 坂本 絵理 阪本 哲男 笹川 裕幸 笹川 泰弘 佐々木 大輔 佐々木 貴子 佐々木 由紀子 佐長 久美子 佐藤 明子 佐藤 公則 佐藤 智恵 佐藤 典宏 佐藤 浩 佐藤 雅敏 佐藤 稔	佐藤製薬株式会社 サノフィ株式会社 佐用 敏彦 澤井 まき子 澤田 敦子 沢田 祐子 参天製薬株式会社 椎名 延年 シェイクハンズ! 塩津 伸司 塩見 美帆 塩見 安帆 嶋山 幸子 認定NPO法人 シャイン・オン!キッズ 篠河建設株式会社 篠田 章 篠原 百合子 田邊 唯実子 渋江 美恵子 渋谷 幸枝 島 治伸 島田 佳奈子 島田 健司 清水 信 清水建設株式会社 志村 朱美 下林 正大 下原 信昭 下山 政行 社会福祉法人 大阪府母子寡婦福祉連合会 社団法人 ジャパンケネルクラブ 大阪ブロック協議会 荘司 英彦 白石 量子 白井松新薬株式会社 白神 洋子 新谷 葵 新日鐵住金株式会社 新保 祐光 親和商事株式会社 杉浦 孝平 杉立 匡規 杉本 洋一 鈴木 明雄 鈴木 彩 鈴木 千穂 鈴木 紀子 鈴木 久夫 鈴木 正彦 鈴木 祐紀子 スタイリングライフ グループ 住友商事株式会社 住友生命保険相互会社 生活設計有限公司 瀬尾 幸男 関 真幸 セフティー電気用品株式会社 双日株式会社 相馬 美紗子 添田 晃 曾我 高臣 曾根 宏徳 園 克彦 第一生命保険株式会社 本町事業所 第一生命労働組合 首都圏営業本部コンサルティング営業室 だいき動物病院 高橋	大正製薬株式会社 大善家具株式会社 大同特殊鋼株式会社 大日本住友製薬株式会社 大理石村・ロックハート城 高井 慎恵 高木 えり絵 高澤 仁司 高瀬 一使徒 高瀬 一博 高田 明子 高田 尊信 高田 圭之 もりの木こどもクリニック 高野 裕子 高橋 脩 高橋 和子 高橋 建太 高橋 繁雄 高橋 晶子 高橋 秀幸 高橋 政勝 高橋 まどか 高畑 由希子 高松 英夫 高山 香世 宝田 知子 滝口 洋子 宅島 博之 田口 洋子 竹下 淳也 竹島 開 竹島 博一 武山 ゆかり 田尻 健 田添 俊昭 田中 徹 田中 みづえ 田中 雄 田中 満 谷川 信治 谷口 浩司 玉井 宏明 垂井 浩 胆道閉鎖の子どもを守る会 中外製薬株式会社 中外製薬労働組合 ぼけっと基金 張 光陽 蝶理株式会社 塚原 一雄 築地7丁目町会婦人部 つくしの会 辻 尚人 津田 留美 積田 安行 鶴岡 朝美 出口 和子 カナリヤの会 寺田 翠 東京コカ・コーポラトリング株式会社 東京志村ライオンズクラブ 東京女子医科大学小児医療研究会 東京マリオットホテル 東京レストランツファクトリー株式会社 東邦薬品株式会社	東洋英和女学院小学部母の会 東和薬品株式会社 戸田 怜奈 栃内 俊一 栃木県保健福祉部健康増進課 土手 多喜子 殿畑 正生 トビー工業株式会社 富田 基生 富田 裕樹 友部 雄 富山県厚生部健康課がん対策推進班 富山福祉短期大学 豊田 純子 豊田通商株式会社 鳥沢 竹彦 内藤 龍平 長尾 加奈子 中尾 憲治 長倉 正雄 中込 悦雄 長崎県こども政策局 原田 あゆみ 中澤 和男 中澤 幸子 長澤 哲郎 「ぬくもり」山梨 中島 功博 中島 功博 長瀬産業株式会社 永田 健吾 中田 政和 中西 功 中野 洋子 中野 博 中野 みちる 永平 もえぎ 中村 和彦 中村 希見子 中村 良樹 中村 美子 仲本 千佳子 永吉 綾 難波江 知英 成岡 千絵 成田 隆澄 成田 幸子 成澤 ともえ 名和 久子 南部 昌弘 新潟県信用農業協同組合連合会 新村 昌弘 西尾 直樹 西岡 利彦 西川 克己 西川 孝 西新発田高校 西田 知佳子 西部 雅 西村 浩志 仁田原 今美 日新製鋼株式会社 日鉄住金物産株式会社 日東交通株式会社 二宮 法久 日本医科大学千葉北総病院 日本製紙連合会	日本生命保険相互会社 佐賀支社 日本生命保険相互会社 吉戸 日本生命保険相互会社 倉敷支社 日本生命保険相互会社 首都圏CSO支部 日本生命保険相互会社 中嶋 ゆみ 日本生命保険相互会社 行田営業部 親和会 日本生命保険相互会社 佐賀支社 日本生命保険相互会社 木之本営業所 日本生命保険相互会社 北大阪支社 日本生命保険相互会社 滋賀支社 日本チャールス・リバー株式会社 日野製作センター 日本チャールス・リバー株式会社 厚木製作センター 日本チャールス・リバー株式会社 筑波事業所 日本チャールス・リバー株式会社 日本労働組合総連合会 認定NPO法人ミルフィユ小児がんフロンティアズ 認定特定非営利活動法人 朴の会 沼津 静香 野内 美輪 ノーベルファーマ株式会社 野口 智子 野島 尚恵 野田 敏之 ノバルティス ファーマ株式会社 萩原 明子 橋口 正子 橋本 浩平 橋本 富美子 馬上 星一 馬上 豊 長谷部 成美 服部 朋子 パナソニックホームズ株式会社 羽生 環 濱 克彦 濱田 奈穂 早川 昂 早川 秀夫 林 修治 林 志郎 林 泰子 林 雅彦 林 佑香 林 富 早田 千鶴子 速水 節子 針生 清高 ライオンズクラブ国際協会332-Eガバナー 伴 和香子 阪和興業株式会社 東山内科・小児科 樋口 明子 樋口 厚子 樋口 清江 肥後東ライオンズクラブ 久光製薬株式会社 火ノ川 好信 氷見 三佐子 平井 俊子 平井 博夫 平尾 美和 平澤 和美 平手 秀典 平野 秀治 平山 忠之 廣瀬 優子	廣村 努 ファイザー株式会社 ファリーダ・ラーマン 深谷 恭子 吹田 健吾 福岡リハビリテーションクラブ 福島 京子 福島 さゆり 福田 博 福田 佳子 福地 誠一郎 藤代 真由美 富士電機株式会社 藤原建築株式会社 藤平 一雄 富士フィルムメディカル株式会社 藤村 正 藤本 敏彦 藤山 優子 藤原 崇志 扶桑薬品工業株式会社 二井 立恵 フリースクールオンリーワン 古川 恵子 普通士学園 宗教委員会 文京区 別所 文雄 ベルテック トレーディング株式会社 許 南浩 蓬谷 浩明 飯塚電王ライオンズクラブ 細井 廣一 細田 裕美 細谷 和夫 細谷 亮太 藤村 麗子 穂波ライオンズクラブ ほのぼのサロン 堀川 哲男 堀口 悦子 本田 雅敬 本田 陽二 毎日新聞東京社会事業団 前田 美穂 眞尾 貴年 増田 勝治 増田 尚久 町田 淳 松井 孝典 松井 秀文 松阪 直美 松嶋 史絵 松田 信夫 松永 憲一郎 松村 伸子 松本 敬子 トータルサポート 松本 友紀 間宮 光江 藤田 昶子 丸井 多恵子 丸石製薬 株式会社 丸石製薬労働組合 丸紅株式会社 丸和バイオケミカル株式会社	三浦 厚子 三川 勝夫 三木 慎二郎 水江 伸夫 水柿 多香子 水谷 富雄 水代 修紀 水野 哲 三井物産株式会社 三菱商事株式会社 三菱電機株式会社 御堂21倶楽部 三松 道尚 宮内 美智子 宮城 智央 宮城県民共済生活協同組合 三宅 隆則 三宅 ゆかり 宮崎県高鍋保健所 宮崎県日向保健所 宮澤 敦子 宮下 仁志 宮の台幼稚園バザー委員会 小堀 高晃 村越 美香 村松 毅 最上保健所 子ども家庭支援課 元田 雅弘 本山 寛 森 賢治 森下 宣子 守田 悦子 守山内科・小児科 モルガン・スタンレー 八木 健次 安島 竜也 谷藤 成味 柳澤 隆昭 山雄 美智代 山川 薫 八巻 恭治 山口 多美代 山口 利子 山崎 聡 山崎 文之 山下 公輔 山下 佳子 やましろ小児科 山城 武夫 山田 勝三 山田 重子 山田 雄介 山本 暁彦 山本 勝利 山本 栄 山本 敬 山本 信江 山本 均 山本 道明 山本 和加子 有限会社 築地につしん太助 有限会社 松田興業 有限会社 アトリエ・デ・くつきいず 有限会社 井田総合ビジネス 有限会社 エイシン工芸 有限会社 エチ・ピー・サービス
--	---	--	--	---	--	---	---

有限会社 エムオフィスサポート 有限会社 エムティシイ 有限会社 大瀧設備事務所 有限会社 キャピタル 有限会社 桜ファミリー 有限会社 サンファミリー 有限会社 西宮共同サービス 有限会社 日総 有限会社 プラン・ドゥ 有限会社 ベルク・エンタープライズ	有限会社 ライフクロカワ 有限会社 ワイズ保険事務所 有限責任事業組合 チャイルドケア研究所 横浜冷凍株式会社 横幕 航平 吉井 智美 吉川 隆 吉住 珠江 吉田 邦子 吉田 知史	吉田 洋 吉田 麻里 吉田 ゆり恵 吉野 純爾 吉野 智子 吉野 靖美 吉本 哲也 米内 雄一 米田 貴 米原 チドリ	米山 望 ラ・フランス 税所 千秋 ライオンズクラブ国際協会335-B 地区7R2Z ライオンズクラブ国際協会337A地区 若杉 和枝 和田 秀一 ワタキューセイモア株式会社 渡部 眞澄 渡邊 万里
---	---	--	---

上記の他、アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、キッズサポートを通じてペアレンツハウス、ならびに小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（6,309件）をいただきました。

匿名ご希望の方からも多数ご寄付をいただいております。

募金者一覧

※敬称略

2型コラーゲン異常症の会 A.FAMILY 株式会社 CLUB66 代表 斉藤 和巳 Devere sora hair design Umi のいえ アーバイン京都 清水五条 一般社団法人ザ・レジッド・チャリティ・オブ・アット・ナット・新緑 医療法人 三幸会 小澤診療所 インテリムホールディングス株式会社 大原薬品工業株式会社 役員・従業員一同 岡山レモネードスタンドの会	沖縄ワクワクファイト 片岡 裕美 株式会社 Fortune KK 株式会社 K2 インターナショナルジャパン 株式会社 WORLD G8 関西学院高等部吹奏楽部 吉祥寺 ひまり屋 公益財団法人 がんの子どもを守る会を応援する会 ジャパニーズゴスペルチャーチ 女性合唱団 くわな市民コーラス 神経芽腫の会 ゼ シュエット	ソフトバンク株式会社 大社の杜 みしま 富山福祉短期大学 中田中央歯科医院 日蓮宗妙像寺 クスノキ会 日本労働組合総連合会 ノバルティス ファーマ株式会社 浜磯こだま商店 福井フェニックスライオンズクラブ 聖路加小児医療センター 松下 清美 道の駅 風穴の里	明治安田生命保険相互会社 営業人事部 明治安田生命保険相互会社 熊谷支社 森下 さふみ ヤフー株式会社 有限会社 築地にしん太助 有限会社 永楽食堂 有限会社 ミートステーション レスリーチャンバースデー募金 レモネードスタンド in ぶくおが 実行委員会 ローソン浜寺石津西 4 丁店
--	--	--	--

他、多くの方からご支援をいただきました。ありがとうございました。

※当会では寄付金について以下の通り取り扱っております。

- 寄付：特定の個人や法人から集まった募金
- 募金：不特定多数の方からの支援金（募金箱やイベント会場など）

公益財団法人がんの子どもを守る会2018年度事業報告書

2018年4月1日～2019年3月31日

2019年6月17日 発行

公益財団法人がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL03-5825-6311(代表)